

大阪府宮泉佐野丘陵緑地 体験プログラムについて

泉佐野丘陵緑地では、遠足時に体験いただける様々なプログラムを用意しています。

※内容によっては対象学年や人数制限等がありますので、プログラムをご希望の場合は、必ず事前に申し込み・打ち合わせをお願いします。

※体験プログラムではガイドや解説のほか、プログラムに必要な道具の貸出を行います。児童の安全管理等は学校の引率者で対応をお願いします。

提供プログラム

◆植物観察・体験

○園内ガイド：

公園内にある植物等について説明するガイドツアー。

開催時期：通年

所要時間：約 1 時間（要相談）

○どんぐりプログラム：

公園内でどんぐりを拾ってもらい、学校で苗木に育てた後に公園に植栽するプログラム。当日はどんぐりゴマも作れます。

開催時期：秋（10月～11月上旬：年によって異なります）

所要時間：約 1 時間～約 2 時間

◆水辺のいきもの観察・体験

○水辺の生き物を探そう！学ぼう！：

水辺の広場で向井池に生息する生き物を観察するプログラム。

開催時期：春～秋

所要時間：約 1 時間半

○ヨシについて知ろう！ヨシで作ろう！：

水辺の広場で池に生育するヨシの刈り取り体験とヨシコースターづくりを行います。

開催時期：秋～冬

所要時間：約 2 時間

※中学年以上、1回に行える人数制限あり

今後、プログラムは随時増やしていく予定です！詳細等は下記にお問い合わせください。

お問い合わせ：泉佐野丘陵緑地 パークセンター

住 所：大阪府泉佐野市上之郷 90 番地

電 話：072-467-2491 fax：072-467-2493

E-mail：kishiwadadoboku-g17@sbox.pref.osaka.lg.jp

開館時間：9：30～17：00

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

■水辺の生きものを学ぶ

タイトル	水辺の生きものを探そう！学ぼう！	
目的・ねらい	水辺の生き物に触れることで、水辺という環境に対応している生き物があることを学ぶ。	
内 容	○時 間	1時間半程度
	○時 期	4月～11月
	○対 象	小学校低学年以上（小学校の遠足へのプログラム提供）
	○人 数	班に分かれて活動（10班まで） ※人数が多い場合はクラス毎に順番に実施
	○場 所	水辺のデッキ
	○事前準備	もんどりを仕掛ける
	○公園貸与物	生きもの観察ビンゴ表、人数分 水生生物パネル（説明用資料）、各班1枚 採集道具（セルビン型もんどり）、3個まで 採集道具（バケツ、タモ網）1班に1セット（10個まで） 観察道具（バット）1班に1個（10個まで） 観察道具（衣装ケース、白っぽいもの）1個 図鑑（必要に応じて） ハンドマイク 救急箱
	○参加者持ち物	長靴 帽子 タオル 筆記用具、ものさし、観察用バインダー 飲み物（熱中症対策） 汚れてもいい服
水辺デッキ周辺の生物の観察 <ul style="list-style-type: none"> 水辺デッキ周辺に生息している水生生物を採取して観察する。 観察した水生生物の特徴を図鑑等で調べる。 水辺に生息する様々な生きものに触れることで水辺という環境に対応している生き物があることを学ぶ。 		

		時間	準備物
工 程	①	5分	ハンドマイク 採集道具 生きもの観察ビンゴ表（説明用資料）
	②	5分	
	③	25分	
	④	20分	水の中の生き物たち一覧（説明用資料） 観察道具等
	⑤	15分	

※事前にもんどりを仕掛けておく

① 現地で点呼、安全面の注意等

② ため池、水辺環境の説明

③ 水辺の生き物の採取
採取道具と生きもの観察ビンゴ表(資料)を配る。
「ビンゴカードに書いているチェック項目をクリアして水辺の生き物マスターを目指しましょう」
採取方法を説明し、参加者に一緒にやってもらおう。
→ヨシなどの抽水植物の根元の石をひっくり返したり、水辺（浅瀬）でタモの中へ足で砂礫ごと蹴り入れる。水からタモを出して何か入っていないか確認し、獲れた生き物をバケツの中へ入れる。
「では今から15分間生き物をとってきてもらいます。また、滑って転ばないように気を付けてください。それではスタート。」
→参加者がふざけて滑って、転ばないように注意しておく。
みつけた生き物を調べる。

④ 15分たったらみんなに集合してもらおう。
衣装ケースを用意して捕まえた生き物を入れてもらう。
もんどりを引き上げ、バットに入れる。
「皆さんにたくさんの生き物を見つけに来てもらいました。では1人ずつ自分の気になった生き物を選んでください。その生き物の大きさや名前どんな動きをしているのか観察してみましょ。大きさは今からものさしを配るのでこれを使って図ってください。名前は水の中の生き物たち一覧（説明用資料）、図鑑等をみるか、先生にきいてください。どんな動きをしているのか観察するときはバットに生き物をいれて観察してみてください。」
参加者にもものさしを配る。
10分ほど観察してもらおう。
時間がきたら集合してもらおう。

⑤ まとめ
「ではどんな生き物がいたか、きいてみましょ

	<p>う」 数人に今日みつけて覚えた生き物の名前をきいていく。 「これで皆さんには今日、水辺の生き物を1種以上覚えて、ビンゴカードも1列以上クリアできたと思います。皆さんにみていただいたとおり、水辺という環境にもたくさんの生き物がいることを知ってもらえたと思います。今日とった生き物はその大切な環境で生活している生き物たちです。では、とった生き物をみんなで逃がしてあげましょう。」 水中に児童と一緒に生き物を逃がす。</p>	15分
⑥	郷の館等に移動し、汚れた手を洗う	

ポイント・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の環境にどのような生きものがいるのか学んでもらう。
安全面での留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・滑りやすいところでは注意して歩くこと、ふざけないことを伝える。 ・泥の中は沈みやすいので参加者がはまってしまわないように気を付ける。 ・夏場は水分補給をこまめに行う。
備考	特になし
参考文献	改訂版日本の淡水魚（山と溪谷社, 1989） 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類（ピーシーズ 2004） 田んぼの生きもの識別図鑑（社団法人地域環境資源センター, 2013） 田んぼの生き物図鑑（山と溪谷社, 2013） 近畿のトンボ図鑑（いかだ社, 2009） 川の生物図典（山海堂, 1996） オタマジャクシハンドブック（文一総合出版, 2008）

○実施場所及び実施イメージ（水辺のデッキ周辺）



■水辺の生きものを学ぶ【説明用資料】

○水の中の生きものたち一覧

水の中のいきものたち

モツゴ



ブルーギル



ミシシッピーアカミミガメ



スジエビのなかま



アメリカザリガニ



シオカラトンボ



コシアキ
トンボ



ギンヤンマ



みんなの大きさを
はかってみよう！
このしゃしんとは
大きさがちがうよ！



サカマキガイ



カワナシのなかま



ヒメタニシ

ウシガエル



ヨシ



参考文献

改訂版日本の淡水魚(山と溪谷社1989)
日本産淡水貝類図鑑の汽水域を含む全国の淡水貝類(ピーシーズ2004)
田んぼの生きもの識別図鑑(社団法人地域環境資源センター2013)
田んぼの生き物図鑑(山と溪谷社2013) 川の生物図典(山海堂1996)
近畿のトンボ図鑑(いかだ社2009) ネイチャーガイド 日本のトンボ(文一総合出版2012)

■水辺の生きものを学ぶ【説明用資料】

○水辺の生きもの詳細

<魚>

・モツゴ

（生息環境）川の中の下流や細流、湖沼、池などの淀んだ水域の泥底を好む。

（餌）雑食性でユスリカの幼虫、イトミミズ、付着藻類などを食べる。

（備考）川底の石や枝をオスが掃除し、そこへメスが産卵に来る。卵は孵化するまでオスが守る。

・ブルーギル

（生息環境）湖の沿岸部や池沼にすみ、大きな河川の下流域や汽水域にも入る。年間を通じて水草付近で生活し、大きな移動は行わない。

（餌）雑食性で、仔稚魚はミジンコ類、その後ユスリカ幼虫、エビ類を食べるようになる。

（備考）原産地は北アメリカで、日本には1960年代に移入された。

<エビ>

・スジエビ

（生息環境）河川の汽水域から上流域、池沼、湖などに生息している。

（餌）雑食性で動物プランクトンや水生植物、魚の死骸を食べる。

（備考）透き通った体に黒い縞がはいる。煮たり佃煮にすると美味。

<ザリガニ>

・アメリカザリガニ

（生息環境）河川、池沼、水田、用水路などの止水や流れの緩やかな浅い泥底を好む。

（餌）典型的な雑食性で魚や水生生物、植物を食べる。

（備考）ウシガエルの餌料としてアメリカから移入された個体が逃げ出して分布を広げた。

<貝>

・サカマキガイ

（生息環境）平野部の川や池、用水路、下水溝などに生息している。

（餌）植食性で微小な藻類を食べる。

（備考）ヘイケボタルの幼虫の餌になる。

・ヒメタニシ

（生息環境）平野部の川や池、用水路など水路や水田などの止水や半止水に生息している。

（餌）植食性で微小な藻類を食べる。

（備考）乾燥に強く、冬季は干上がった田の土の中などで越冬する。

・カワニナ

（生息環境）山間部の川や冷たい水が安定して流れている細流、用水路などの砂礫底を好む。

（餌）藻類、落葉、時にはミミズ、ドジョウ、ザリガニなどの死骸を食べる。

（備考）ゲンジボタルの幼虫の餌になる。

<トンボ>

・シオカラトンボ

（生息環境）平地や丘陵地、低山地の水生植物の繁茂する池沼や湿地の水たまり、水田、溝川などの広範囲な止水域に生息している。

（餌）肉食性で小さな小動物を食べる。

（備考）シオカラトンボ型のヤゴ体形は、同属のものに酷似しているが、背棘がないため簡単に他種と区別ができる。

・コシアキトンボ

（生息環境）平地から丘陵地、低山地の樹陰のある池沼や淀んだ河川などに生息する。都市の公園の池などにも見られる。幼虫は池沼の沈積物の影などに潜む。

（餌）肉食性で小さな小動物を食べる。

（備考）ヤゴ体形は、ショウジョウトンボに似ておる。

・ギンヤンマ

（生息環境）平地や丘陵地、低山地の水生植物の繁茂する池沼や湿地の水たまり、水田、溝川などの広範囲な止水域に生息している。

（餌）肉食性で小さな小動物を食べる。

（備考）ヤゴ体形は、下唇は平らで、大きな可動鉤がある。全形が細長く体表がほぼなめらか。

<カエル>

・ウシガエル

（生息環境）平地や丘陵地、低山地の池沼、小川、河川緩流域などに生息している。ほとんど水中で暮らす。秋になると水底に移動し、冬眠する。

（餌）幼生は植物食を中心とした雑食性。変態後は動物食で、昆虫類、ミミズ、小魚など水辺に集まる小動物は何でも食べる。

（備考）成体、オタマジャクシとも他のカエルに比較してとびぬけて大きい。原産地は北アメリカで、食用ガエルとして移入された。

<植物>

・ヨシ

（生育環境）湖沼や河川の浅い水域、水路などに群生する。湿原や休耕田などにも生育する。

（生活史）多年草で種子や地下茎で冬を越した後、4~5月ごろ新芽をだし、茎を伸ばして急速に成長する。8~10月にかけて大きな円錐形の花をつける。

（備考）丈夫な茎はよしずなどに使われ、若い葉で粽を作ったり、私たちの生活とのかかわりの深い植物である。

■水辺の生きものを学ぶ【説明用資料】

○生きもの観察ビンゴ表

いきものみつけ
ミッション!
春バージョン

 エビを つかまえる	 さかなを つかまえる	 おたまじゃくし をつかまえる
 ヤゴを つかまえる	 いきものの 名前を調べる	 かいを つかまえる
 つかまえた いきものの 動きを観察して メモする	 カメを 見つける	 つかまえた いきものの 名前を 1つおぼえる

がんばってビンゴしよう!

いきものみつけ
ミッション!
夏～秋バージョン

 ザリガニを つかまえる	 さかな をつかまえる	 カメを 見つける
 かいを つかまえる	 いきものの 名前を 調べる	 トンボを みつける (つかまえる)
 つかまえた いきものの 名前を 1つおぼえる	 ヨシの高さを はかろう	 つかまえた いきものの 動きを観察して メモする

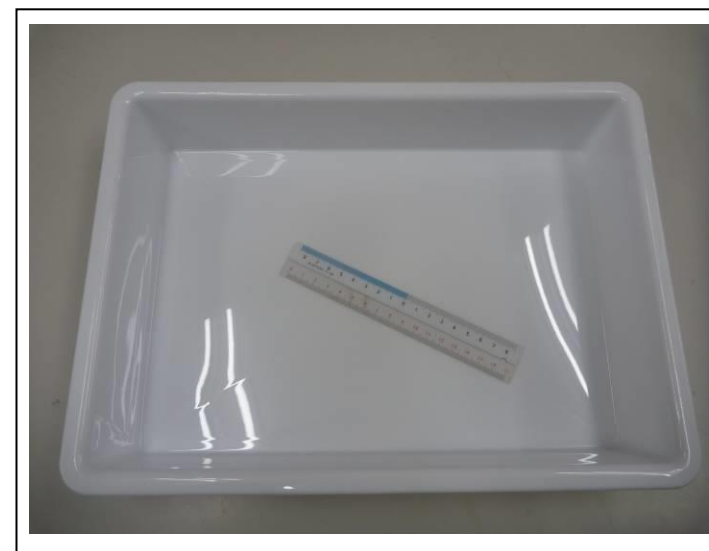
がんばってビンゴしよう!

■低湿地の生きものを学ぶ【準備物】

○採集道具（バケツ・タモ網、セルビン型もんどり）



○観察道具（バット、衣装ケース）



■ヨシについて知ろう！ヨシで作ろう！

タイトル	ヨシについて知ろう！ヨシで作ろう！	
目的・ねらい	水辺に生育するヨシについてどんな植物か、どのように私たちの暮らしに利用されてきたか等を学ぶ。さらに、刈ったヨシを使った工作を行い、楽しむ。	
内 容	○時 間	2 時間程度
	○時 期	秋～冬季
	○対 象	小学校中学年以上
	○定 員	36 名まで（研修室の机の数による）
	○場 所	水辺のデッキ周辺＋室内
	○事前準備	乾燥したヨシを 15cm 程度の長さに切っておく
	○公園貸与物	<p>ヨシについて学ぶ</p> <p>ヨシについてのパワーポイント ヨシ採取道具（剪定ばさみ） ヨシを束ねる道具（紐） 図鑑 ハンドマイク メジャー</p> <p>ヨシで作ろう 乾燥したヨシ（長さ 15cm 程度の長さのもの） コースターの土台（段ボール又は厚紙） ボンド、のり 工作用はさみ カッター カッター台 救急箱</p>
	○参加者持ち物	長靴、帽子 タオル、筆記用具 飲み物（熱中症対策） 汚れてもいい服
	<p>① ヨシについての理解 ・ヨシの 1 年、生活との関わりなどについて学ぶ。 ・水辺デッキ周辺に生息しているヨシの刈り取りを体験する。</p> <p>② ヨシで工作 ・室内でヨシを材料にコースターを作る。</p>	

	時間	準備物		
工 程	①	ヨシについての説明【研修室】	15 分	ヨシについての パワーポイント ハンドマイク 採集道具 冬季以外はヨシ を数本刈り取り ヨシの長さ当て クイズのみ実施
	②	野外へ出発にあたって安全面の注意等	5 分	
	③	水辺の広場へ移動（往復 15 分） 水辺のヨシの採取、長さ調べ【水辺の広場】 ・水辺デッキで採取道具を配る。 「ヨシがどの植物かわかりますか？」と聞いて、ヨシについて説明、観察する。 採取方法を説明し、参加者に一緒にやってもらう。 →参加者が滑って転ばないように、ハサミでけがをしないように注意しておく。ヨシの置場を明示する。 ・15 分たったらみんなに集合してもらう。 ・ヨシを数本選んで長さ当てクイズをする。（背の高い植物であることを実感してもらう）	40 分	
	④	ヨシで作ろう 室内に戻ってコースターづくりの説明 →参加者が安全に実施するよう注意しておく。	30 分	
	⑤	まとめ ・出来上がったコースターの発表会 ・刈り取ったヨシを示して今日学んだことの簡単に復習する。	15 分	

ポイント・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシは水辺に生える生活に関わりの深い植物である。 ・ヨシは冬場に枯れた地上部を刈ることで、水質を保全できる。 ・ヨシを使って工作を楽しむ。
安全面での留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・滑りやすいところで転んでけがをしないように注意する。 ・泥の中は沈みやすいので参加者がはまってしまうように気を付ける。 ・ハサミ・カッターでけがをしないように注意する。
備 考	特になし
参考文献	西宮の湿生・水生植物 http://plants.minibird.jp/hydrophytes/plants/shissei/ya_gyou/yosi/yosi.html 真庭こども ICT(愛して)ネットワーク http://kodomo.city.maniwa.okayama.jp/kids/www/info/detail.jsp?id=7675

○実施場所写真（水辺のデッキより撮影（12月））



ヨシが繁茂しているため、デッキから池の水面までの距離がある



■ヨシを学ぼう【説明用資料】

○ヨシコースターの作り方

ヨシコースターの作り方

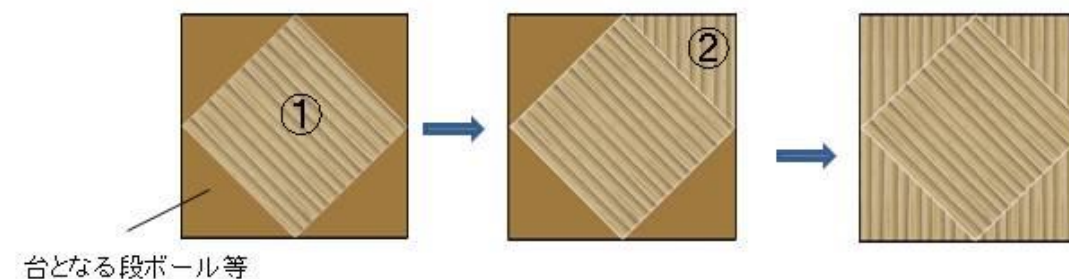
材料

- ・乾燥したヨシ（15cm程度に切ったもの）
- ・台となる段ボールや厚紙など（10cm×10cm程度）
- ・ボンド、のり
- ・カッター、工作用はさみ
- ・カッターをあてる定規



作り方

- ①段ボールの上にデザイン図を描く
- ②デザインに合わせてヨシをボンドで貼っていく



- ③段ボールからはみ出したヨシをカッター又ははさみで切る



■ヨシを学ぼう【説明用資料】

ヨシってどんな植物？

泉佐野丘陵緑地

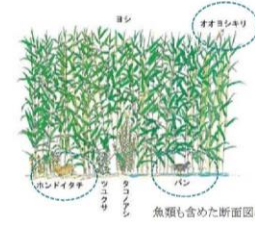


ヨシを見たことがありますか？

- ヨシは水辺に生える背の高い植物です。高さは2~3mほどになります。
- イネ（お米）の仲間です。



ヨシは生きもののすみか




魚類も含めた断面図に変更予定

ヨシは水をきれいにする - 3つの働き -

- ヨシによって、水の流れを弱くして、水の汚れを沈めるはたらき。
- ヨシの水中の茎につく微生物や群落の土中の微生物によって水の汚れを分解するはたらき。
- ヨシが水中の窒素、リンを養分として吸い取るはたらき。

ヨシはどこに生えているでしょう？

- ヨシは海岸、川岸、池岸など水辺に多く生えます。
- 日本では北海道から沖縄まで生育します。



ヨシとアシは同じ？

- 同じです。
- アシというと悪し（よくない）に通じることからヨシと言い換えたとされています。
- 正式な和名はヨシです。

ヨシは私たちの生活と関わってきました

- 葎筒（よしず）はヨシからできています。
- 滋賀県などヨシが多く採れるところでは屋根をヨシで葺きます。
- 若い葉は、ちまきの材料にします。
- 最近ではヨシで紙も作られています。



ヨシを刈るということ

- ヨシの地上部は冬に枯れ、春には新しい芽が出てきます。枯れた茎を刈ってもまた、芽が出てくるので、人々は枯れた茎をうまく利用してきたのです。
- ヨシは水中の栄養分を吸い取り、植物の中に取り込みます。この結果、水をきれいにする役目を果たします。その際、枯れたヨシをそのままにしておくと、せっかく吸収した栄養分が流れ出てしまうので、枯れた茎を刈って持ち出すことは水をきれいにするために重要なことです。

ヨシの1年

冬 冬の期は地下茎か種子で過ごします

春 春、地下茎から芽を出してくぐくん茎を伸ばします

夏 夏～秋にかけて花を付け、秋頃に結実します

秋

http://plants.mnh.nibio.go.jp/entry/yoshi/plants/whisoo/a_yoshi/terra/kuho/kuho.html

ヨシは生きもののすみか

- 魚のすみか
 - 多くの魚がヨシ原に卵を産み付けます。
 - 卵からかえった稚魚のエサ場や隠れ場になります
 - エビ類や貝類の生息場となっています
- 鳥やネズミのすみか
 - オオヨシキリやバン、カヤネズミの繁殖場
 - 敵からの隠れ場

■ヨシを学ぼう【準備物】

○ヨシ採取道具（鎌・剪定鋏、ロープ）



○ヨシ



○ハンドマイク



○救急箱



■園内ガイド

タイトル	園内ガイド	
目的・ねらい	園内に生育する季節の植物について解説を聞き、楽しみながら植物や生態系等についての知識を深める。	
○時間	1時間程度～	(時間については調整可能)
○時期	通年	
○対象	何歳でも (年齢により時間や内容を変えます)	
○定員	なし (人数が多い場合は班に分かれていただきます)	
○場所	園内各所	
○事前準備	なし	
○公園貸与物	特になし	
○参加者持ち物	歩きやすい靴、帽子 汚れてもいい服	

内 容

散策ルート (モデルコース)



■どんぐりプログラム

タイトル	どんぐりプログラム																	
目的・ねらい	小学校の遠足と公園づくりを連携させるため、園内で拾ったどんぐりを学校で育て、苗木を公園に植栽することで自然育成を体感する。																	
内 容	○時 間	1 時間程度～																
	○時 期	STEP1 どんぐり拾い：秋（10月～11月上旬ごろ） STEP2 は学校でどんぐりを育てていただきます STEP3 苗木植栽：翌年の初夏（6月）以降																
	○対 象	何歳でも																
	○定 員	なし（人数が多い場合は班に分かれていただきます）																
	○場 所	STEP1 園内のどんぐりのあるところ STEP2 学校内 STEP3 どんぐりの森																
	○事前準備	なし																
	○公園貸与物	STEP1 バケツ 3 個（選別用）、 【どんぐりゴマをつくる場合】 キリ、ハサミ、油性ペン、 作業用机・丸イス、ブルーシート、 コマ用土俵・土台（5セット）、 STEP3 移植ごて																
	○参加者持ち物	歩きやすい靴、帽子 汚れてもいい服、ビニール袋																
	○学校準備物	つまようじ																
	<p>詳細別紙参照。 最低 2 回（STEP 1 と STEP 3）、公園で活動していただきます</p> <p>STEP 1 : どんぐり拾い（公園で作業）</p> <p>① 1 日コース</p> <p>【スケジュールイメージ】※時間は目安。要望に応じて調整可能</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:30</td> <td>公園到着</td> </tr> <tr> <td>9:30～9:45</td> <td>泉佐野丘陵緑地&どんぐりについての説明</td> </tr> <tr> <td>9:45～11:30</td> <td>園内散策&どんぐり拾い</td> </tr> <tr> <td>11:30～11:45</td> <td>園内休憩所「郷の館」に集合、 どんぐりの種類確認、工作用・育苗用に選別</td> </tr> <tr> <td>12:00～13:00</td> <td>パークセンターに移動後昼食&竹馬等で遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>13:00～13:45</td> <td>どんぐりゴマづくり&遊ぶ</td> </tr> <tr> <td>14:00</td> <td>終了、帰校</td> </tr> </tbody> </table>			時間	内容	9:30	公園到着	9:30～9:45	泉佐野丘陵緑地&どんぐりについての説明	9:45～11:30	園内散策&どんぐり拾い	11:30～11:45	園内休憩所「郷の館」に集合、 どんぐりの種類確認、工作用・育苗用に選別	12:00～13:00	パークセンターに移動後昼食&竹馬等で遊ぶ	13:00～13:45	どんぐりゴマづくり&遊ぶ	14:00
時間	内容																	
9:30	公園到着																	
9:30～9:45	泉佐野丘陵緑地&どんぐりについての説明																	
9:45～11:30	園内散策&どんぐり拾い																	
11:30～11:45	園内休憩所「郷の館」に集合、 どんぐりの種類確認、工作用・育苗用に選別																	
12:00～13:00	パークセンターに移動後昼食&竹馬等で遊ぶ																	
13:00～13:45	どんぐりゴマづくり&遊ぶ																	
14:00	終了、帰校																	

② 半日コース（所要時間 60 分）

【スケジュールイメージ】 ※時間は目安。要望に応じて調整可能

所要時間	内容
	公園到着
15 分	泉佐野丘陵緑地&どんぐりについての説明
30 分	どんぐり拾い
15 分	どんぐりの種類確認、工作用・育苗用に選別

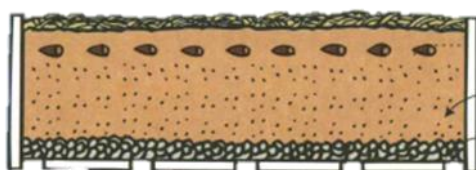
STEP 2 : どんぐり育成（学校で作業）

※学校でプランター等にどんぐりを植えて育てます。

水やりを定期的に行ってください（翌年 6 月以降まで学校で育成）。

【スケジュールイメージ】 ※時間は目安。授業 1 コマ以内で作業可能

所要時間	内容
5 分	植える際の注意点について説明
10 分	プランターへ土入れ・どんぐり植付
10 分	プランターを育苗場所へ移動、水やり
5 分	お世話についての注意点について説明



プランターに横 2 列程度で植付
（土は多少かぶっている程度）

STEP 3 : どんぐり植栽（公園で作業）

【スケジュールイメージ】 ※所要時間 45 分程度（時間は目安）

所要時間	内容
10 分	植える際の注意点について説明
15 分	植え穴掘り・どんぐり植付
5 分	水やり
10 分	プレート立て、記念撮影
5 分	これからお世話についての注意点について説明

STEP 4 : どんぐりの成長記録・苗木の手入れ（任意）

- ・植栽したどんぐりの成長を公園に来て観察。
- ・水やりや草抜き等の作業をする場合は道具（ジョーロやビニール袋等）を貸出します

どんぐり拾いルート：☆印がどんぐり拾いポイント



●どんぐりの森づくりプログラム

□目的

- ・地域の子どもたちを対象に、公園内のどんぐりを使い、公園をつくり・育む機会を提供し、環境学習機能の向上と地域との連携を図る。
- ・植樹後の経過を子どもたちに知ってもらうとともに、継続的な苗木の手入れや観察を行うことで、自然を慈しむ心を養い、自分たちの手で成長させる喜びを感じてもらう。

□対象者

- ①地域の保育園、泉佐野丘陵緑地を利用している支援学校
 - ②地域の小学校中学年（3～4年生）
- 小学校の環境教育（理科もしくは社会の授業）として参加してもらう

□内容

STEP1：どんぐり拾い

- ・初年度の秋、コラボレーション区域の樹林内でどんぐりを拾う。
- ※拾ったどんぐりの一部を使った工作会も実施し、子どもたちに楽しみながら自然に触れてもらう。



どんぐり拾いのイメージ



どんぐりゴマのイメージ

STEP2 苗木の育成

- ・拾ったどんぐり（水を張った容器にどんぐりを入れ、沈んだものを育成に利用、浮いたものは工作に利用）は、プランターに土や落ち葉と一緒に植える。
- ・水やりを春、夏は毎日行い、特に夏は乾燥に注意する。秋・冬は土が乾いたら水やりをする。
- ・小学校では環境学習の一環として、クラスで苗木の世話をを行う。



良質などんぐりを選ぶ



↑泉佐野丘陵緑地ではいろいろな種類の「どんぐりの木」がありますが、数多くみられるのは上記2種



↑小学校等でのどんぐり苗木育成のイメージ

※STEP1 →STEP2 の段階を踏むことが難しい場合は、大阪府が拾ったどんぐりを学校で育てる STEP2 から開始する。

STEP3：どんぐりの木の植樹

○苗木の植樹

- ・どんぐり拾いの翌年の秋もしくは翌々年の春、植生回復エリアで成長した苗木を植えてもらう。
- （3年生の秋に育苗開始→4年生の6月以降に植え付け）
※プランターから根を切らないように分けて植えてもらう。



植樹のイメージ

○記念プレートの作成・設置

- ・植生回復エリアでの植樹後は、園内の伐採木や伐採竹を使った記念プレートをつくり、学校毎にプレートを取り付ける。



記念プレート設置の様子



記念プレートのイメージ

STEP4：成長記録・苗木の手入れ

- ・苗木の成長の観察を行い、樹高の測定やスケッチ等を行う。子どもたちには、観察を通して楽しみながら自然について学んでもらう。
 - ・観察前には、植樹した苗木の手入れ（水やり、除草等）を行ってもらい、みんなの手でどんぐりの森を継続的に作り・育む活動を展開する。
- ※水やり・除草については、個人的に来園した時でも、パークセンターに申し出てもらえればジョウロ等の道具の貸与を行う。



苗木の観察を行う様子



苗木に水やりをする様子



苗木の成長記録帳のイメージ